

# 東京エリア デビアン 勉強会



Debian勉強会幹事 上川純一

2008年11月15日

# 1 Introduction

上川 純一

今月の Debian 勉強会へようこそ。これから Debian の世界にあしを踏み入れるという方も、すでにどっぷりとつかっているという方も、月に一回 Debian について語りませんか？

Debian 勉強会の目的は下記です。

- Debian Developer (開発者) の育成。
- 日本語での「開発に関する情報」を整理してまとめ、アップデートする。
- 場 の提供。
  - 普段ばらばらな場所にいる人々が face-to-face で出会える場を提供する。
  - Debian のためになることを語る場を提供する。
  - Debian について語る場を提供する。

Debian の勉強会ということで究極的には参加者全員が Debian Package をがりがりとするスーパーハッカーになった姿を妄想しています。情報の共有・活用を通して Debian の今後の能動的な展開への土台として、「場」としての空間を提供するのが目的です。

以上を目的とした、2008 年アジェンダです：

1. 新年会「気合を入れる」
2. Open Source Conference Tokyo (3/1)
3. データだけのパッケージを作成してみる、ライセンスの考え方 (David Smith)
4. バイナリーつのパッケージを作成してみる (吉田@板橋)  
バージョン管理ツールを使い Debian パッケージを管理する (git)  
アップストリームの扱い (svn/git/cvs)(岩松 信洋さん)
5. バイナリーの分けたパッケージの作成。(前田さん)  
バイナリーの分け方の考え方、アップグレードなどの運用とか。
6. パッケージ作成 (dpatch/debhelper で作成するパッケージ)(小林儀匡さん)  
man の書き方 (roff or docbook)(でんさん) OSC 2008 Hokkaido
7. パッケージ作成 (kernel patch、kernel module)(岩松 信洋) Debconf 発表練習 (上川さん)
8. Debconf アルゼンチン、共有ライブラリパッケージ作成コミックマーケット 74
9. Open Source Conference Tokyo/Fall、デーモン系のパッケージの作成、latex、 emacs-lisp、フォントパッケージ
10. パッケージの cross-compile の方法、amd64 上で i386 のパッケージとか、OSC-Fall 報告会、Debconf 報告会
11. 国際化 po-debconf / po 化 / DDTP
12. 忘年会

## 目次

1	Introduction	1
2	事前課題	3
2.1	平澤	3
2.2	あけどさん	4
2.3	濱野さん	5
2.4	前田さん	5
2.5	山本さん	5
2.6	やまださん	6
2.7	Motohara さん	6
2.8	きたはらさん	6
2.9	鈴木さん	7
2.10	じつかたさん	7
2.11	藤沢さん	7
2.12	伊藤さん	7
2.13	岩松信洋さん	7
2.14	森田尚さん	8
2.15	日比野 啓	8
3	Debian Trivia Quiz	10
3.1	debian-devel-announce	10
4	最近の Debian 関連のミーティング報告	11
4.1	東京エリア Debian 勉強会 45 回目報告	11
5	Debconf8 参加報告	12
5.1	Debconf とは	12
5.2	アルゼンチン・マルデルプラタ	12
5.3	スケジュール	13
5.4	会期中で気になったこと	13
6	「その場で勉強会資料を作成しちゃえ」 Debian を使った L <sup>A</sup> T <sub>E</sub> X 原稿作成合宿	14
6.1	概要	14
6.2	事前準備	14
6.3	演習 0: 環境設定	15
6.4	演習 1: リポジトリチェックアウト	15
6.5	演習 2: emacs whizzytex 起動	16
6.6	演習 3: セクションを追加	16
6.7	演習 4: 説明の章だてを書いてみる	16
6.8	演習 5: 説明の中身を書いてみる	16
6.9	演習 6: コマンドライン出力を追加してみる	18
6.10	演習 7: png 画像を挿入してみる	18
6.11	演習 8: git で変更をコミットしてみる	18
6.12	演習 9: git での変更を送信してみる	18
6.13	演習 10: git で変更をマージしてみる	18
6.14	演習 11: 全体を眺める <sub>2</sub>	18
6.15	今回演習できない TIPS	18

## 2 事前課題

岩松 信洋

今回の勉強会の準備として、前日までに Debian GNU/Linux (sid) のインストールされたノートパソコンを用意していただき、 $\text{\LaTeX}$  環境を構築し、Debian 勉強会資料が作成できるまでを確認してもらいました。これらの準備で発生した問題などを  $\text{\LaTeX}$  合宿準備奮闘記として提出していただきました。

### 2.1 平澤

centos5(utf-8) で  $\text{\LaTeX}$  を vim でつかっている平澤です。

Debian を触り始めたのがこの一年ぐらいから。そもそも sid ってなんだあ? ってレベルで皆様にはご迷惑掛けてマス

今回のお題に触発されまして早速ノート PC の HDD をフォーマットしてクリーンインストール。

#### 2.1.1 Debian GNU/Linux sid のインストール

debian sid のインストールは

[http://blog.wcrawl.com/archives/thinkpad\\_x41\\_debian\\_sid.html](http://blog.wcrawl.com/archives/thinkpad_x41_debian_sid.html)

を参考にしてノート PC に sid をインストール。このページで '手間がかからない' 方法をつかってみました。

この方法だと

```
hirasawa@debian-note:~$ cat /etc/apt/sources.list
# deb http://ftp.jp.debian.org/debian/ sid main

deb http://ftp.jp.debian.org/debian/ sid main
deb-src http://ftp.jp.debian.org/debian/ sid main
hirasawa@debian-note:~$
```

となる。

#### 2.1.2 パッケージのインストール

下記の指定されたパッケージのうち xpdf-japanese と gs-cjk-resources をインストールするためには /etc/apt/sources.list に non-free を追加する必要がありました。

```
# apt-get install \
make ptex-bin dvi2pdf latex-beamer \
okumura-clsfiles gs-esp xpdf xpdf-japanese whizzytex \
evince \
texlive-latex-extra \
advi emacs22 yatex gs-cjk-resource gv git-core git-gui \
qgit avahi-daemon \
libnss-mdns avahi-autoipd
```

#### 2.1.3 教材となる勉強会資料をチェックアウトしてビルド

これ以降は指示の通りにやってみました。(なにをやっているのかはわからない)

うちの非力 PC だと 20 分以上やっていますが.....(じつはまだ終わっていない)  
流れている文字をみているとなんか pdf がつくられているの見える。(リアルタイムで中継中) もうそろそろ終了か?

DellL400(Pen3 700MHz ぐらい) で 30 分ぐらいかかって、debianmeetingresume の pdf がたくさんできてきました。

以上、debian 初心者の平澤でした。

## 2.2 あげどさん

まずそもそもノートなマシンに Debian は入れていなかったもので、空いてるノートを探したところ、Tadpole SPARCBook GS3 なんてのがあったのでそれにインストールを挑戦、結果は惨敗、敗因は実装メモリが 32MB というのが大きかったです。インストール要件には 64MB 以上となっていました … orz

仕方無いので、メインで使っている iBookG4(PPC) に環境を作成しました。インストールに使った CD は sarge 用で APT リポジトリの指定 (/etc/apt/sources.lst) が何故かというかやはりというか stable (今だと etch) になったのでちょっとハマったのはお約束? 他にも不要に見えた kernel-image のパッケージを削除して boot 出来なくなりインストールをやり直したりしました。orz それ以外は、X-Window も特にトラブル無くインストール出来、sarge etch sid と dist-upgrade で楽に出来ました。XFree86 から X.org になったんだよなぁなどと感慨深いものがあったりしました。何とか一応環境構築も出来まして上川さんの資料の PDF 生成までできました。

ただ、そのままでは出来上がった PDF を表示しても日本語が空白になってしまいます。というか、そもそもデフォルトの GNOME 環境の xpdf では日本語が表示できないようです。(何がまずいのかは未だ不明です。)

なので、勉強会資料の PDF のプロパティを見てフォントが CMR10, CMSS17, … とあるので

```
# aptitude install cm-super cm-super-x11
```

としてフォントをインストールして

```
# aptitude install kpfd
```

で KDE 用 PDF ビューア をインストールする必要があるようです。他の PDF ビューア ePDFViewer でも日本語表示ができませんでしたのでその点は注意が必要かなと思います。

あと、山根さんご推薦のフォントを

```
# aptitude install ttf-kochi-gothic-naga10 ttf-kochi-mincho-naga10
```

としてインストールしました。

おまけ iBookG4(PPC) へのインストールでは X-Window GDM で `]` キーが入力出来ない現象があり、キーマップを変更するのに .xsession .initrc で xmodmap -e "keycode 51 = 0x5d" としても反映されませんでした。これは .Xmodmap に

```
keycode 51 = 0x005d 0x007d 0x005d 0x007d
```

と記載する必要がありました。上記の各コードは normal shift かな かな shift の各入力モードにそれぞれ対応するようです。なお、キーコードを調べるには Xterm などから

```
xev -display :0.0
```

としてテストウィンドウを開いて調べることが出来ます。左 Shift 右 Shift もそれぞれキーコードが出力されるのでその点の留意が必要です。

## 2.3 濱野さん

ノート PC は会社から借りてるのしか持ってなくて普通に仕事で使っているのだから sid にするのはカンベンしてください。といっても、sid じゃないとダメな理由があるでしょうから、KVM/QEMU で仮想環境を構築し、外付け USB ハードディスク内に sid の環境を用意してみました。

```
% dd if=/dev/zero of=vda.img seek=4G bs=1 count=0
% mkdir ./mnt
% mount -o loop vda.img ./mnt
% debootstrap sid mnt/
% echo "sid" > mnt/etc/hostname
% echo "auto eth0" >> mnt/etc/network/interfaces
% echo "iface eth0 inet dhcp" >> mnt/etc/network/interfaces
% umount mnt/

% qemu -m 256M -kernel vmlinuz-2.6.27.2 \
-drive file=vda.img,if=virtio,boot=on \
-append root=/dev/vda -k ja -curses -redir tcp:10022::22
```

sid の環境が出来ました。ゲストにて

```
% apt-get make install ptex-bin dvipdfmx latex-beamer \
okumura-clsfiler gs-esp xpdf xpdf-japanese whizzytex evince \
texlive-latex-extra advi emacs22 yatex gs-cjk-resource gv \
git-core git-gui qgit avahi-daemon libnss-mdns avahi-autoipd
```

いろいろ入りました。ゲストのカーネルを削ってしまったせいか、途中 CONFIG\_HIBERNATION=y にしろと  
が言われましたが無視しました。

```
% git clone git://git.debian.org/git/tokyodebian/monthly-report.git
% cd monthly-report
% cp -p git-pre-commit.sh .git/hooks/pre-commit
% time make
% ls *.pdf
```

10 分程度で PDF が出来上がりました。ゲスト側に windomanager などが入っていないので、ホスト側に持ってきて xpdf で読んでみるとぱっちり日本語も表示されました。当日までにゲスト側の X の環境も整えておこうとおもいます。

また、texlive を使うのは初めてなのでハンズオンを楽しみにしています。

## 2.4 前田さん

普段から Sid の環境を使っているので、環境の準備という点では特に困ったことはありませんでした。以前、MacBook Air を 64bit 化したときにはちょっと苦労したことはありました<sup>\*1</sup>が、今回の課題とは論点が外れるので省略。L<sup>A</sup>T<sub>E</sub>X の環境も、5 月度の勉強会のときに環境を整備していたので、こちらも特に苦労せず。あえて言えば、git を普段から使っていないので、以前 git clone で取得した Debian 勉強会のリポジトリを最新状態に更新する方法と、yatex の設定を .emacs のどこに書くのかを調べました。

気になったのは PDF が 110 くらいではなく、95 しかできていないのは何故か？何か足りないものがあるのでしょうか。(あまり追求せず)

細かく挙げると意外とあるもんですね。

## 2.5 山本さん

奮闘と言うほど、奮闘はしていません。

1. Debian GNU/Linux sid のインストール Note PC は元々 sid をインストールして使っていました。
2. パッケージのインストール aptitude を使いインストール。Recommends は入れてません。

<sup>\*1</sup> <http://d.hatena.ne.jp/mkouhei/20080713#1215913997>

3. 教材となる勉強会資料をチェックアウトしてビルドパッケージを入れた時 (3 週ぐらい前の時点) では何の問題もなくビルドできました。勉強会直前にまたチェックアウトして試してみます。

## 2.6 やまださん

今回はじめて Debian 勉強会に参加させていただきます、やまだです。事前にノート PC に sid と L<sup>A</sup>T<sub>E</sub>X の環境を準備することになっていましたので、その状況を説明します。

ハードウェア: Sony VGN-Z70B (<http://www.vaio.sony.co.jp/Products/Z1/>)

インストール方法: Windows Vista 上の VMware に Debian 環境を構築する

1. Windows Vista 上に、フリーの VMware Server をインストールしました  
VMware Server の利用は初めてだったのですが、セキュリティ証明書に問題がある点を除けば比較的スムーズにインストールできました。
2. VMware Server に Debian をインストールしました  
sid のインストールは初めてだったのですが、先に debian-users ML に情報が流れてしまいましたので、比較的スムーズにインストールできました。(See [debian-users:51105] ) 次の Web ページを参考にしました。  
[http://blog.wcraw1.com/archives/thinkpad\\_x41\\_debian\\_sid.html](http://blog.wcraw1.com/archives/thinkpad_x41_debian_sid.html)
3. パッケージをインストールしました  
`/etc/apt/sources.list` に `non-free` を追加する必要がありましたが、debian-users ML の情報があっただけで解決できました。
4. 教材となる勉強会資料をチェックアウトしてビルドしました  
ビルドは問題なく完了しました。

T<sub>E</sub>X は大昔に本を読んだり軽く触った程度の経験しかなく、本格的に L<sup>A</sup>T<sub>E</sub>X を使ったことはないのですが、今回の勉強会で勉強させていただきます。

## 2.7 Motohara さん

Debian 勉強会には初めて参加させて貰います matchara といいです。Debian は Server 用途に使うことが多いです。

事前準備の報告です。Etch で利用している NotePC を `sources.list` を書き換えて sid に `dist-upgrade` しました。パッケージの導入でつまづきましたが `sources.list` に `non-free` を登録することで回避できました。

この後、データの取得まではよかったのですが約 90 分と `make` にとっても時間が掛かってしまいました。このマシンの CPU は AMD GeodeLX 500Mhz なのでこれが利いているのだと思います。

これでは当日も辛そうなので MacBook(Core2Duo 1.8MHz) に仮想マシン (ParallelsDesktop4.0) として sid を導入してみたところ 9 分ほどで `make` 終了しました。当日はこちらのマシンで参加しようと思います。ちなみに今回初めて不安定版の新規インストールの方法を知りました。

L<sup>A</sup>T<sub>E</sub>X はほぼ初めてなので少し不安ですがよろしくをお願いします。

## 2.8 きたはらさん

デスクトップも Etch を常用しているので、sid のインストールが初体験で、その方法を調べる所から結構悩みました。git 関係も以前の勉強会で学習していたはずですが、すっかり忘れていて、以前の資料を引っ張り出したりして苦労しました。最終的に pdf は出来たのですが、上記で作成した sid 環境で日本語フォントの部分が表示されず、いまだ未解決。勉強会に間に合うか?(当該ファイルも、某 OS では問題なく表示でき、日本語フォントが埋め込まれている資料は、問題なく表示出来るので、ドキュメントビューアの代替フォントの設定の問題なのかと思っているのですが...)

## 2.9 鈴木さん

sid 環境作成するのが大変でした。まずなによりも不覚だったのは、stable を間違っ てインストールし終わって から課題メールを読みはじめたこと。この時点で締切り残り 1 時間強。sid インストールは特に問題なかったです。ダウンロード時間以外は。そしてここでタイムオーバーの 11/13 の 24 時を迎えてしまいました。pdf のほうも問題なくできあがりしましたが、debian で日本語が見られる環境になっていなく、他の環境で確認しました。勉強会までに見られるようにしておきます。

## 2.10 じつかたさん

元々、MacBook の VMware 上に sid がインストールしてあったので、パッケージのみインストールしました。pdf の生成も完了しました。sid がインストール済みでしたので、比較的楽でした。ただ、 $\text{\LaTeX}$  をまったく使ったことがないので、事前に勉強していこうと思っています。が、これ(事前課題)を提出する時点で、まったく勉強ができていません。

## 2.11 藤沢さん

既に期限を過ぎてしまっていますが、提出します。Debian sid が必要ということで、まずは sid のインストールからはじめました。sid は今まで自力でインストールしたことがなかったのですが、ここでいきなりつまづいてしまいました。ノート PC ということで MacBook に入れようとしたのですが、インストールしてみると、X Window がなにやらエラーをはいて、そのまま真っ黒に……。そもそも作業を始めたのが遅かったので、6 時間くらいで断念しました。(エラーの内容を記録し忘れまして……。無念) その後、別のノート PC を用意して VMWare 上で動かすことにし、こちらをインストール。こちらは上手くいきました。その後の各種設定は大きな問題もなくスムーズにできたので、奮闘したのはインストール作業のみです。MacBook で動かせなかった問題は、近いうちに解決してやろうと心に誓いました。

## 2.12 伊藤さん

既に期限を過ぎてしまっていて大変もうしわけないです。

特に苦労したという訳でも無いですが、evince の日本語フォントの設定が入っておらず日本語の PDF を表示できずに気まずい状態だったので以下の様にフォントのシンボリックリンクを作ってあげました。

```
$ sudo apt-get install cmap-adobe-japan1
$ sudo ln -s /usr/share/xpdf/japanese/Adobe-Japan1.cidToUnicode
/usr/share/poppler/cidToUnicode/Adobe-Japan1
$ sudo mkdir -p /usr/share/poppler/cMap
$ sudo ln -s /usr/share/fonts/cmap/adobe-japan1
/usr/share/poppler/cMap/Adobe-Japan1
$ evince debianmeetingresume200502.pdf
```

こういう場合の対応のフィードバックをどうすればいいかを学んでフィードバック出来るようになるのが自分の課題だなと思っております。

## 2.13 岩松信洋さん

普段から sid を使っているのと、 $\text{\LaTeX}$  で資料を作成しているのと、特に問題はありませんでした。普段の書き方としては、Emacs をメインで使っていないため、細かい使い方が分からず、Emacs で編集、コンパイル後、evince でリロードで確認という方法をとっています。今回、ちょっと大人になってみるか、ということで上川さんがおすすめする whizzytex をインストールして使ってみました。大きな画面では使いやすいですが、ノートパソコンではちと使いづらいという印象です。また、whizzytex は vim などでは使えないようなので、メンテナである上川さんに vim



でも使えるようにしていただきたいと思います。

## 2.14 森田尚さん

LaTeX 合宿準備奮闘記

パッケージのインストールと勉強会資料のビルドは問題なくできました。WhizzyTeX がうまく動きませんが、当日までになんとかするつもりです。

LaTeX は仕事でも使っていますが、いまだに得意ではありません。以下思いついたところを書き並べてみます。

LaTeX 関係で作って公開しているもの：

- `multipagebox.sty` <sup>\*2</sup>  
ページをまたげる囲み罫のパッケージです。
- `vfddata-otf-ptex` <sup>\*3</sup>  
OpenType を扱うための OTF パッケージの Debian パッケージです。

LaTeX について知りたいこと：

- 次世代日本語 TeX の動向（特に Unicode サポート）
  - `epTeX`, `upTeX`, `eupTeX`
  - `ptexlive`いずれも香田さんが Debian パッケージ化作業中？
- マクロをテストする方法  
`trace` で追いかけるのに疲れたので `texunit.sty` を書きかけましたが挫折しました。良い方法があれば教えてください。

LaTeX と関係ないけれど知りたいこと：

- `tex4ht` を pTeX で使う方法

## 2.15 日比野 啓

当日に提出して大変申し訳ないです。当然のように載ってないのでここに書いてみます。

普段使っている Think pad に自分の環境を壊さないように設定を追加していってみました。今回追加するパッケージのうち、もともと入っていなかったのは、`dvipdfmx latex-beamer okumura-clsfles texlive-latex-extra whizzytex advi yatex git-gui qgit avahi-daemon avahi-autoipd libnss-mdns` でした。avahi 関係以外はサクッとインストールしました。avahi 関係は普段使っていないのと、ネットワークが使えなくなってハマったことがあったので、パッケージのダウンロードだけしてきました。git での `monthly-report` の checkout から pdf の build も問題なく終わりました。

あんまり関係ないですが、`a4j + jsarticle` だと `dvipdfmx` がうまく動かない問題があるようです。

```
>** WARNING ** Could not open config file "fontmapsx".
```

みたいなエラーが出ます。

```
\documentclass[a4j]{jsarticle}
\begin{document}
ほげほげ
```

---

<sup>\*2</sup> <http://hisashim.livejournal.com/398344.html>

<sup>\*3</sup> <http://sourceforge.net/projects/ideotype>

```
\end{document}
```

みたいな.tex で.dvi を出力してちょっと `strace -f dvipdfmx hogehoge.pdf` してみると

```
>stat("/etc/texmf/dvipdfm/fontmapsx", {st_mode=S_IFREG|0644, st_size=60, ...}) = 0
>...
>access("./fontmapsx", R_OK)          = -1 ENOENT (No such file or directory)
>...
>write(2, "Could not open config file \"fontm\"..., 39Could not open config file \"fontmapsx\".) = 39
```

変な場所に fontmapsx を探しにいくようです。kpathsearch の問題? でしょうか。

## 3 Debian Trivia Quiz

岩松 信洋



ところで、みなさん Debian 関連の話題においついていますか？ Debian 関連の話題はメーリングリストをよんでいると追跡できます。ただよんでいるだけでははりあがないので、理解度のテストをします。特に一人だけでは意味がわからないところもあるかも知れません。みんなで一緒に読んでみましょう。

今回の出題範囲は `debian-devel-announce@lists.debian.org` に投稿された内容と Debian Project News からです。

### 3.1 debian-devel-announce

`debian-devel-announce@lists.debian.org` への投稿内容からです。

問題 1. BTS 500000 番はどんなバグ報告だったでしょうか

- A SPAM だった
- B cdbts に defoma 対応させるためのパッチ
- C Lenny リリースが遅れているというバグ報告

問題 2. 10 月 25 日から 30 日まで行われた BTS の景品は何でしょう？

- A DPL からのキス
- B 次回の Debconf 無料チケット
- C おいしいクッキー

問題 3. `screenshots.debian.net` は何をまとめたサイトでしょうか？

- A デスクトップのスクリーンショット
- B ソフトウェアのスクリーンショット
- C Debian Developer のプライベート写真集

問題 4. Joerg Jaspert がプロポーザルを出した Debian membership とは？

- A 「Debian 開発者」の現在の定義を変えるための提案
- B Debian 開発者の家族に関する提案
- C Debian から fork したディストリに関する提案

問題 5. Debian Installer team から出たアナウンスは何でしょう？

- A ごっめーん！インストーラー遅れちゃった。
- B Debian Installer lenny RC1 出たよ
- C RC1 は飛ばして リリースする予定です。



## 4 最近の Debian 関連のミーティング報告

岩松 信洋

### 4.1 東京エリア Debian 勉強会 45 回目報告

東京エリア Debian 勉強会報告。10 月の第 45 回東京エリア Debian 勉強会を実施しました。今回の Debian 勉強会は、OSC 2008 Tokyo/Fall で行い、参加者は、やまねさん、前田さん、明渡さん、斉藤さん、日比野さん、山本さん、小室さん、本上さん、たかすぎさん、小林さん、岩松の 11 名でした。セミナーとして、やまねさんが「あなた」とオープンソース/フリーソフトウェア、そして「Debian」という題名で、岩松が、オープンソースでの Flash 再生環境という題名でお話させていただきました。やまねさんのセミナーは大盛況でしたが、岩松のセミナーは人がいませんでした。内容がマニアックすぎるのと、朝一のセミナーだったためとおきます。また、勉強会大集合として、東京エリア Debian 勉強会の紹介を岩松がお話させていただき、勉強会に関して、パネルディスカッションを行いました。このパネルディスカッションでは、各勉強会の運営方法やメリットデメリットについて話しました。今後、いろんな勉強会が増えるといいですね。

ブースでは、eeepc on Debian , USB 顕微鏡、PPC, ARM マシンの展示、過去の資料の展示、Lenny インストール DVD の配布意を行いました。いろんな方がブースに寄られ、さまざまな意見交換が行われたようです。OSC が終わった後、Ubuntu 関係の方と割烹 二葉 で宴会をしました。



## 5 Debconf8 参加報告

上川 純一

### 5.1 Debconf とは

2008 年度の Debconf は 8 月 10 日から 8 月 16 日まで、アルゼンチンのマルデルプラタで行われました。日本からは、上川 純一が参加しました。

#### 5.1.1 Debconf の歴史・経緯

Debian Conference <http://debconf8.debconf.org/> は Debian の開発者たちが一同に介するイベントです。通常顔をあわせることのないメンバーたちが一同に介し友好を深め、技術的な議論を戦わせます。過去の開催履歴を見てもと表 1 のようになります。

表 1 歴代の Debconf 参加者推移

年	名前	場所	参加人数
2000	debconf 0	フランス ボルドー	
2001	debconf 1	フランス ボルドー	
2002	debconf 2	カナダ トロント	90 名
2003	debconf 3	ノルウェー オスロ	140 名
2004	debconf 4	ブラジル ポルトアレグレ	150 名
2005	debconf 5	フィンランド ヘルシンキ	200 名
2006	debconf 6	メキシコ オアスタベック	300 名
2007	debconf 7	英国スコットランド エジンバラ	約 400 名
2008	debconf 8	アルゼンチン マルデルプラタ	約 200 名

#### 5.1.2 Debconf 2007

2008 年度の Debconf は海辺のホテルを二棟借りて開催しました。宿泊しているホテルの 7F と 1F がハックラボになっており、7F がカンファレンスルームになっているという便利な環境でした。

## 5.2 アルゼンチン・マルデルプラタ

### 5.2.1 行き方

日本からアルゼンチンまでは、直行便がありません。上川はサンフランシスコ・カナダのトロント・チリのサンチャゴを経由してアルゼンチンのブエノスアイレスまで移動 (ここまでで約 30 時間程度)、そこからバスで移動 (5 時間 (直行) から 10 時間 (乗り換え)) しました。

今回の会期は従来と違い長期休暇でバカンスをとっている人の多い時期です。そのため、飛行機の予約のタイミングが難しかったかもしれません。また、日本からアルゼンチンに行く便には安いものがあまりみつからず苦労しま

した。

ブエノスアイレスからマルデルプラタの間は東京・大阪間程度の距離があり、多数のバスが通っています。空港からブエノスアイレスの市街で乗り換えれば多数のバスがあるのですが、空港からの直行のバスは非常に少なく (Manuel Tenda Leon という会社のバスのみが運行している模様)、予約ができない人がでていたようです。

### 5.2.2 会場

会場はビーチリゾートとして知られるマルデルプラタの中央カジノ前のホテルでした。



## 5.3 スケジュール

8月10日から開始し、8月16日までイベントがぎっしりつまっていました。8月18日にブエノスアイレスに移動し、そこで Debian Day を開催しました。

## 5.4 会期中で気になったこと

上川が今回参加して気になったことを紹介します。

Debconf に参加しているミラーサーバはフルミラーではなくアーキテクチャ i386, amd64, ppc と armel でした。

qemubuilder を開発している関係で armel 関連の作業を行いました。qemubuilder の armel 移植と、armel 関連のデバッグなどです。しかしながら途中で PC の HDD が故障し後半は HDD の購入からインストール、macbook のブートローダのデバッグに費しました。

PGP キーを IC カードで利用する仕組みがあるみたいで、作成していました。ただ、仕組みがよくわからないので今回はスルーしました。

## 6 「その場で勉強会資料を作成しちゃえ」 Debian を使った L<sup>A</sup>T<sub>E</sub>X 原稿作成合宿

上川 純一



### 6.1 概要

Debian 勉強会では資料を L<sup>A</sup>T<sub>E</sub>X で管理しています。Emacs, Git, L<sup>A</sup>T<sub>E</sub>X で Debian 勉強会資料作成をする流れを体験してみましょう。

ハンズオンで Debian 勉強会資料のチェックアウト、作成からコミットまでの流れを一通り試します。途中でつまつたらできるまで現地で対応する予定です。<sup>\*4</sup>。

### 6.2 事前準備

当日の時間は限られているため、事前準備が必要です。現地に入るまでに準備しておくものです

- 無線 LAN 接続可能なノートパソコン (十分長い LAN ケーブルを持参しても可能、スイッチも持参してください)
- 必要なパッケージをインストールした Debian GNU/Linux sid のシステム
- 記事にする内容。紹介したいツール/パッケージ関連のコマンドライン出力と画面写真と簡単な説明文章。

事前にインストールしておいて欲しい必要なパッケージは

- 基本ツール: make
- L<sup>A</sup>T<sub>E</sub>X 一式: ptex-bin dvipdfmx latex-beamer okumura-clsfiles ghostscript-x<sup>\*5</sup> xpdf xpdf-japanese evince poppler-data texlive-latex-extra
- emacs / whizzytex 関連一式: whizzytex advi emacs22-gtk<sup>\*6</sup>yatex gs-cjk-resource gv
- Git 関連一式: git-core git-gui qgit
- DHCP / Avahi 関連一式: avahi-daemon avahi-autoipd libnss-mdns
- 日本語フォント関連: ttf-mona ttf-sazanami-mincho ttf-vlgothic
- 日本語入力関連: scim-anthy
- 日本語必須ツール: lv<sup>\*7</sup>

<sup>\*4</sup> ベストエフォート、もしかするとできない場合もあります

<sup>\*5</sup> lenny 以前での gs-esp 相当

<sup>\*6</sup> emacs22 でもよい、emacs22-nox は難しいかも

<sup>\*7</sup> lgrep など

avahi の設定が正しいことは、ping ホスト名.local が使えるかどうかで確認します。/etc/nsswitch.conf の hosts 行に mdns\*<sup>8</sup>を参照する設定が追加されていることを確認してください。

```
hosts:          files mdns dns
```

```
# apt-get update
# apt-get install \
make ptex-bin dvipdfmx latex-beamer \
okumura-clsfles ghostscript-x xpdf xpdf-japanese whizzytex \
evince poppler-data \
texlive-latex-extra \
advi emacs22-gtk yatex gs-cjk-resource gv git-core git-gui \
qgit avahi-daemon \
libnss-mdns avahi-autoipd \
ttf-mona ttf-sazanami-mincho ttf-vlgothic \
scim-anthy
# jisftconfig add
```

\*9

事前にダウンロードしてビルドできる環境であることを確認しておいてください。

```
$ git clone git://git.debian.org/git/tokyodebian/monthly-report.git
$ cd monthly-report
$ cp -p git-pre-commit.sh .git/hooks/pre-commit
$ make -j4
$ ls *.pdf # 110 くらいの PDF ファイルが生成されていることを確認
```

Emacs の設定をします。yatex の設定と文字コードの設定をします。

.emacs に

```
;; YaTeX が漢字コードを毎回 ISO-2022-JP に設定しないようにする
(setq YaTeX-kanji-code nil)

;; git.el をロードする
(load-library "/usr/share/doc/git-core/contrib/emacs/git.el")
```

Git の設定もしておきましょう。ユーザ名とメールアドレスを設定します。設定しないとホスト名や /etc/passwd の設定をデフォルトで使ってしまいます。

```
$ git config --global user.email dancer@netfort.gr.jp
$ git config --global user.name "Junichi Uekawa"
```

## 6.3 演習 0: 環境設定

勉強会の会場で準備している環境です

- avahi 経由で接続できる Debian package cache (i386, amd64)
- 無線 LAN(WEP) ESSID:XXXXXX

DHCP でネットワーク接続してください。avahi(mDNS) で名前解決できることを確認してください。apt リポジトリの設定が可能であることを確認してください。

```
# ping coreduo.local
# cat /etc/apt/sources.list
deb http://coreduo.local:9999/debian/ sid main contrib non-free
# apt-get update
```

## 6.4 演習 1: リポジトリチェックアウト

```
$ git clone git://coreduo.local/git/monthly-report.git
```

\*8 なんらかの mdns の設定であればよく、例えば mdns4 であってもよい。

\*9 okumura-clsfles の依存する ptex-jisfonts はインストール後に手動で設定をする必要がある。具体的には jisftconfig add を実行。



```
$ make -j4 # エラーがでます
$ cp -p git-pre-commit.sh .git/hooks/pre-commit
$ make -j4
```

## 6.5 演習 2: emacs whizzytex 起動

```
$ cd XXXXX
$ emacs
```

whizzytex を起動します。レビューが開始するというメリットだけでなく、即時コンパイルエラーを検出できるのが重要です。

```
M-x whizzytex-mode
```

スペルチェックも起動しましょう。<sup>\*10</sup>

```
M-x flyspell-mode
```

## 6.6 演習 3: セクションを追加

まずセクションを追加します。

```
\dancersection{XXXX}{名前}
\index{XXXX@YYYY}
\label{XXXX@YYYY}

% 本文
```

## 6.7 演習 4: 説明の章だてを書いてみる

```
\subsection{xxxx}
\subsection{xxxx}
\subsection{xxxx}
\subsection{xxxx}
\subsection{xxxx}
```

## 6.8 演習 5: 説明の中身を書いてみる

文章は空行区切りでパラグラフになります。roff などと同じです。改行は無視されます。

\ではじまる文字列が命令です

```
\XXXX{YYYY}
```

monthlyreport.sty で追加のコマンドが定義されています。<sup>\*11</sup>

表を作ってみましょう。

表 2 キャプション

ディストリビューション	バージョン	備考
ディストリビューション	バージョン	備考
ディストリビューション	バージョン	備考

<sup>\*10</sup> iamerican もしくは ibritish パッケージが必要です。

<sup>\*11</sup> フットノートが追加できます

知っておきたい構文は実はあまりたくさんはありません。利用されている上位:

```
$ sed -n 's/.*\\(\\[[a-z]\\+\\).*/\\1/pg' *.tex | sort | uniq -c | sort -rn
6948 \item
6240 \end
5628 \begin
1952 \subsection
1623 \subsubsection
1491 \santaku
1258 \url
1189 \hspace
895 \hline
874 \texttt
522 \dancersection
473 \footnote
451 \includegraphics
447 \vspace
405 \label
378 \frametitle
357 \usepackage
323 \hspace
316 \hrule
300 \section
253 \bf
236 \index
```

利用されている上位の begin-end 構文

```
$ sed -n 's/.*\\(\\begin{[a-z]}\\+\\).*/\\1/pg' *.tex | sort | uniq -c | sort -rn
1742 \begin{itemize}
1293 \begin{commandline}
1245 \begin{frame}
781 \begin{minipage}
271 \begin{center}
194 \begin{enumerate}
148 \begin{tabular}
133 \begin{figure}
```

Debian GNU/Linux のようによく使う文字列は newcommand で定義できます。ただし、命令がファイル毎に別の意味を持つようになると管理がしにくくなるのでできるだけ monthlyreport.sty に定義は集中させています。monthlyreport.sty は共有しているので変更する際には御注意を。最初に変更内容について誰かにレビューをお願いしたほうがよいと思います。

```
$ git log --pretty=format:%an monthlyreport.sty | sort | uniq -c
15 Junichi Uekawa
3 Nobuhiro Iwamatsu
```

エスケープが必要な文字列の出力方法

- `\verb` は見にくくなるので最終的手段
- `~`
- `^`
- `aaaa<aaaa` そのままだと;`;`
- `aaaa>aaaa` そのままだと;`;`
- `aaaa#aaaa`
- `aaaa%aaaa`
- `_aaaa`

よく使うコマンド

- `begin itemize / item / end itemize`
- `begin enumerate / item / end enumerate`
- `commandline` (勉強会用に定義)
- `includegraphics` 後述
-

## 6.9 演習 6: コマンドライン出力を追加してみる

```
\ begin{commandline}  
コマンドライン出力  
\ end{commandline}
```

## 6.10 演習 7: png 画像を挿入してみる

```
includegraphics  
png  
git add  
ebb  
make で確認。
```

## 6.11 演習 8: git で変更をコミットしてみる

```
$ make
```

```
M-x git-status
```

## 6.12 演習 9: git での変更を送信してみる

```
$ git pull
```

コンフリクトを解消します。

```
M-x git-status
```

```
$ git push
```

```
$ mkdir ~/patches/  
$ git format-patch -o ~/patches/ HEAD^
```

生成されたパッチファイルをメールで送付します。

## 6.13 演習 10: git で変更をマージしてみる

## 6.14 演習 11: 全体を眺める

outline-minor-mode が便利です。

## 6.15 今回演習できない TIPS

### 6.15.1 alioth tips

資料の編集には alioth を利用します。alioth.debian.org, git.debian.org です。

アカウントを作成します。Debian Developer でないばあい、XXXX-guest というユーザ名になります。

便利につかうため、.ssh/config に設定を追加しましょう。

```
ServerAliveInterval 10
ServerAliveCountMax 12

Host alioth.debian.org
  ControlMaster auto
  ControlPath ~ /tmp/ssh-%r@%h:%p
  User xxxx-guest

Host git.debian.org
  ControlMaster auto
  ControlPath ~ /tmp/ssh-%r@%h:%p
  User xxxx-guest

Host localhost
  StrictHostKeyChecking no

Host *.local
  CheckHostIP no
```





**Debian 勉強会資料**

2008年11月15日 初版第1刷発行

東京エリア Debian 勉強会（編集・印刷・発行）

---